

令和5年度第1回太宰府市総合戦略推進委員会会議録
(まちづくりビジョン会議)

1 開会及び閉会に関する事項

- 1 日 時 令和5年8月18日(金)
午後3時00分開会
午後5時10分閉会
- 2 場 所 太宰府市役所3階 庁議室

2 委員出席者

委員 長	八 尋 茂 雄
副委員 長	八 尋 和 郎
顧 問	福 留 大 士
委 員	青 山 博 秋
委 員	池 田 昌 太
委 員	大 西 良
委 員	小 川 祥 平
委 員	日下部 寛 行
委 員	杉 春 華
委 員	竹 下 盛 人
委 員	松 澤 尚 史
委 員	森 憲 太郎
委 員	柳 瀬 隆 志
委 員	藤 木 せ ら
委 員	結 城 茉 優

3 執行部

市 長 部 局：楠田市長・原口副市長・高原総務部長・轟総務部理事・宮原経営
企画課長

4 議題

- (1) 令和5年度太宰府市総合戦略推進委員会スケジュール(案)について
- (2) 総合戦略KPI・Output進捗状況について
- (3) 令和4年度決算の概要、施策評価について
- (4) 市民意識調査結果について
- (5) 本年度の重要テーマについて
 - ①令和6年度当初予算編成について
 - ②令和の都だざいふまるごと大図鑑(仮)について
 - ③太宰府市教育大綱について
 - ④観光推進基本計画について

- ⑤立地適正化計画・地域公共交通計画・総合交通計画について
- ⑥ひきこもり支援について
- ⑦ゼロカーボンシティ2050について

5 概要

議題（1）令和5年度太宰府市総合戦略推進委員会スケジュール（案）について

<事務局説明>

◆今年度は年に4回の開催を予定。

議題（2）総合戦略K P I ・ O u t p u t 進捗状況について

<事務局説明>

◆4つの基本目標と31の施策から構成されている総合戦略には、基本的に成果指標となるK P I と活動指標であるO u t p u t 指標を設定している。

◆昨年度の総合戦略K P I ・ O u t p u t 進捗状況について、現時点で把握している主だったものを中心に説明。

<委員意見・提案>

◆回遊ルートの充実について、市内に文化財や観光地が点在しているが、点の資産を線に昇華させるように力を入れてほしい。

⇒回遊ルートは長年の課題。今年度については、例えば回遊ルートのモデルコースといったものを民間の団体、N P O 法人と連携しながら実証を重ねている。

◆修学旅行生、シルバー世代のグループ、あるいは夫婦など特定した対象者ごとに観光ルートと観光メニューをそれぞれ揃える。また、交通手段、駐車場など二次交通の関係やグルメ、特産品なども併せて準備、具体化していくことが必要になってくる。

⇒対象ごとの誘客にそれぞれ働きかけてる。例えば修学旅行については、参道の事業所を中心に旅行会社とプレゼンテーションを行っている。特に若い女性対象には団体と協力し、プチ女子旅や歴史の解説とスイーツを絡めたり、レンタサイクル事業を絡めるなどしている。太宰府市の観光の形態がコロナ前と若干変わってきているので、現在であれば食べ歩き、特にスイーツのコンテンツが参道を中心に今かなり増えているので、現在、グルメ、特産品などの要素を取り込みながら推進をしている。

◆待機児童の問題はどこの市もあると思うができるだけ解決してほしい。待機児童の問題は保育士が少ないということがあると思うので、保育士を増やすために人勢確保の施策を充実してほしい。

⇒保育人材についてはどこの市も非常に苦慮しており、市立の保育所にしてもなかなか採用に結びついていない実態がある。支援が必要な子供も増えているため、支援員の拡充なども今後は視野に取り組んでいく必要があると思う。

◆昨日テレビで介護施設の特集があった。1人余剰の人員を抱え、サポートできる人間を置くことでより多くの人を助けるということをしていた。余剰の人員を抱えられない財政の事情も分かるが、例えば周りの自治体と連携してサポートできる保育士を福岡県から派遣する仕組みを作り、もし急に子供が増えたときにはサポートが入る状態を作ることの一つの案としてあるかと思う。

議題（3）令和4年度決算の概要、施策評価について

議題（4）市民意識調査結果について

<市長説明>

- ◆市税は前年度より3.3%増、ふるさと納税も過去最高を記録し、予算規模は300億円ほどになった。
- ◆次回委員会では施策評価を基に、様々な分析を行っていただきたい。
- ◆市民意識調査では本市の住みやすさが就任前60%台だったが、初めて80%を超えた。

議題（5）本年度の重要テーマについて

①令和6年度当初予算編成について

<事務局説明>

- ◆当初予算編成は9月下旬より始まり、1月下旬には決定するスケジュール。予算審査の過程において、事業の優先順位や内容、予算額の精査、重点的に予算を振り分ける項目等について検討を重ねて予算案を作成する。

②令和の都だざいふまるごと大図鑑（仮）について

<事務局説明>

- ◆あえて平仮名の「だざいふ」を使用し、古からの点なしの大宰府、現代の点ありの太宰府も合わせて平仮名のだざいふとしての魅力を再発見し、今後のさらなる発展に向けて、令和の都だざいふまるごと大図鑑の策定を検討している。
- ◆太宰府市が既に売りにしているもの、これから売り出していかなければならないものを募り、大図鑑を見れば令和の都だざいふに関するあらゆる情報を把握できるものになることを想定している。

③太宰府市教育大綱について

<事務局説明>

- ◆教育大綱は教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策を定めるもので、本年度の改定を予定している。改定の方針として、特に学問のまちとして学力向上に力点を置くなど、市長部局と教育委員会がより一層連携を密にし、充実した内容にしていきたい。
- ◆関連して中学校完全給食の進捗として、本市が調理、配送などを委託する株式会社日米クックの新しい調理場である太宰府セントラルキッチンが水城に完成し、施設見学会が行われた。1月から安心安全でおいしい給食が提供されることが期待できる。また、現在市内4中学校の配膳室工事が行われており、それとともに今年度4月から4中学校に配置した栄養職員を中心に子供の安全を守るアレルギー対応についても進めている。今後、給食のリハーサル、保護者の試食会をして、皆様に安心していただけるように進めている。

④観光推進基本計画について

<事務局説明>

- ◆今年度は本計画の改定の年度であり、現在策定協議会を設置し進めている。
- ◆コロナ禍を経た旅行者のトレンドの変化もあり、滞在型観光等のコト消費に変容しているが、本市は食べ歩き等を中心とした通過型観光となっており、経済税収効果を高める

ためにも新たな観光ニーズに対応した観光スタイルが必要と認識している。

- ◆次期観光推進基本計画の基本理念を「“令和の都” だざいふが誇る地域資源を活かした、住まう人も、訪れる人もともに喜びを分かち合える観光地としていくための、中長期的な本市観光推進の指針とする」とした。この基本理念の下、本市を国内外の旅行者から選ばれる観光地としていくために地域が一体となって取り組む持続可能な観光を本市のあるべき姿と掲げ、本市が有する歴史や文化などの地域資源を活用した体験型観光を促進し、観光による経済税収効果をさらに高め、市民にその効果を還元できる観光まちづくりを目指す。
- ◆次期計画に盛り込む要素の事務局案として、以下5点挙げている。
 - ・「数の観光から質の観光へ」について、体験型メニュー開発による高付加価値化を図る。
 - ・「滞在時間の増よりも観光消費単価増による経済税収効果拡大」について、回遊性向上によりリピーターを増やし、継続的に地域にお金が落ちるシステムを構築する。
 - ・「民間事業者の活力を活用したサステナブルな観光の実現」について、民間事業者と連携し、地域資源を掘り起こし、年間を通じて体験可能なコンテンツ造成を進める。
 - ・「オーバーツーリズムへの対応」について、観光客の増加に伴うごみのポイ捨て、トイレ・喫煙マナー、交通渋滞等への対策を地域一体として行う。
 - ・「観光DMOの設立に向けた取組」について、観光協会と連携し、観光地域づくりの司令塔となるDMOを設立し、観光コンテンツの開発、磨き上げを進める。

<委員意見・提案>

- ◆太宰府と言えば太宰府天満宮に観光客が集中するというのが定番になっていると思うが、観世音寺などもぜひ観光客に回ってもらいたい。太宰府市の観光客には多くの外国人観光客がいると思うが、そういう方々は日帰りで外国から来ることはないので、太宰府市に長く泊まってもらうためにも宿泊施設の充実が必要。近隣市にも観光スポットが多くあるので、宿泊施設を造ることで周辺の観光客も呼び込めるのではないかな。
- ⇒特に欧米の方は体験型の観光を求めているようなので、そのようなプロの方と今協定を結んで、太宰府らしい経験を積んでもらう、太宰府だけではなくて近隣の自治体も一緒に回ってもらうことを検討している。
- ◆太宰府魅力発信ガイド育成講座が始まると思うが、その大学生向けの講座を実施し、太宰府に住んでる大学生が太宰府で活躍できるようなものがないかなと思う。タイに行った際に、現地の旅行会社のようなところに当日の朝に行くと、ゾウに乗ったり、船に乗ったり、市場に行ったり、有料だが色々案内してくれる人がいた。太宰府もいろんな場所があるので、太宰府駅近くにそういう申込みの場所をつくって1日観光客を案内するものをつくれないかなと思う。
- ⇒将来的には有料でそこまでしたいと思うが、まだ有料でということまでは想定していない。今までボランティアで文化財を案内していただく方は、結構高齢の方が多かったが、若い大学生などに案内してもらえそうな雰囲気づくりをしたいというのはある。
- ◆観光客と住む人が共存してともにウィン・ウィンの関係になるようなまちをつくっていききたいとあるが、観光客が優先なのか、住む人が優先なのかという、そういう目線の切り方も大事ではないかなと思う。
- ◆アイランドシティは20年前は何もなかったが、教育をテーマにしたまちをつくらうと

ということが終始一貫してあった。小中一貫校をまずつくって、そこに小学校1年生から英語教育を入れるという、教育に関心のある方はこのまちに集まってくださいという売り方をした。太宰府は将来、観光を中心としたまちをつくりたいのか、住んで安心安全、そして快適な暮らしが福岡市の隣町にあるというまちにしていくのかというアウトラインを大まかに決めたらいいのではないかと思う。

◆太宰府には子育て支援に携わりたい学生がたくさんいると思う。そのことをうまく活用しながら、太宰府に住んだらすごく手厚く子供を見てくれて、赤ちゃんから幼児まですごくいきいきした笑顔のまちだよみたいなことができれば、住みたいと思うし、まちが活性化する。外貨を稼ぐ福岡市で共に働いて、戻ってくれば安心安全に見守ってもらった我が子連れて家庭に帰る、そんなまちって住みたいよねみたいになってくると、もっともっと魅力が出てくるのではないかと思う。

⇒市民ニーズに基づいて行政運営に取り組んできたが、全体としてどういうまちを標榜してきたかというとなかなか定まっていなかったかもしれない。令和の御縁や太宰府という過去からの歴史はあるが、現代においてどういう住みやすさがあるのか。やはり住んでいる方が最優先で、その上で来ていただく方にお金を落とさせていただく、そういう順番だとは思う。それを踏まえて太宰府らしさというのをもう一度捉え直して、やっぴいこうというのが「令和の都だざいふまるごと大図鑑（仮）」の取組なので、この取組についてまた皆様から御意見をいただき、新たな一歩を踏み出したい。

⑤立地適正化計画・地域公共交通計画・総合交通計画について

<事務局説明>

◆立地適正化計画は、人口減少、超高齢化社会に備え、今後の都市づくりにおいて持続可能な都市構造への転換を図る必要があることから、立地適正化計画制度を活用して一定の人口密度や生活サービス機能等を維持するため、人々の住まいや公共施設、医療施設、商業施設などの日常生活に必要な都市機能を一定の範囲内に緩やかに誘導し、コンパクトなまちづくりを推進することを目的としている。策定のポイントとして、日常生活サービス機能などを提供できる各鉄道駅などの拠点を中心とする都市機能誘導エリアなどの検討を進めており、併せて居住誘導エリアや防災指針についても検討を行っている。

◆地域公共交通計画は、地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにするマスタープラン。本市でも従来のバスやタクシー、鉄道の既存の公共交通サービスを最大限に活用した上で、必要に応じて地域の様々な輸送資源についても最大限活用することができる取組を盛り込むことで、持続可能な地域旅客運送サービスの提供を確保することを目的として計画策定を進めている。計画策定に当たっては、誰もが使いやすく持続可能な公共交通の構築を目指し、地域公共交通活性化協議会において御意見や御指摘をいただきながら検討を行っている。

◆総合交通計画は、本市内における自動車、自転車・歩行者の視点より、日常的な交通、観光の交通、公共交通、まちづくりにおける交通の位置づけなど、総合的な交通体系において現状の実態把握から問題・課題を抽出し、交通体系の再編等に向けたハード、ソフトを含めた交通施策について取りまとめることを目的としている。基本方針の案とし

ては、円滑な交通体系の再編、安心安全の交通体系の再編、まちづくりと一体になった交通体系の再編の基本方針を軸に検討を進めている。

- ◆立地適正化計画、地域公共交通計画、総合交通計画については、それぞれ関連があり、立地適正化計画と地域公共交通計画につきましてもコンパクト+ネットワークの考えから連携が重要となり、地域公共交通計画と総合交通計画につきましても、良好な交通環境の形成のために連携が重要であると考えている。

<委員意見・提案>

- ◆太宰府市のいわゆるコンパクトなまちづくり、交通に関するイメージの中で、JR、西鉄の両方の二日市駅を広域の拠点として挙げており意義があると思っている。西鉄二日市のホームは一部太宰府なので、ある程度地域の大きな拠点をうまく活用するような形で構成をすると、鉄道事業者も協力的に動いていただけたらと思うし、プロの人たちとの協力が必要だと思う。

- ◆計画等をつくる際に国との関わりが必要だが、先日国土交通省の交通政策審議会が地域公共交通の「リ・デザイン」ということで、再構築等に関する助言がなされた。太宰府市を実験場として使い、サポートしてくださいと国と交渉したり関わっていくことが必要かと思う。もちろん実験なので成功するとは限らないが、自走式のロープウェーであったり、高齢者の独り乗りのモビリティスクーターであったり、今から実用化が見込まれるであろう新たな技術も取り入れていく。実験場となる代わりに国にお金も出してもらったような交渉などが必要かと思う。

⇒二日市駅は太宰府市民にとっても日頃の通勤・通学や、日常生活で利用する駅という位置づけになっているので、これらも含めて色々な拠点と拠点を結ぶ、また、住むところと都市機能を誘導していくといった太宰府市にとって望ましい将来の都市の在り方を検討している。また、国も公共交通の「リ・デザイン」ということで、例えばスクールバスを通勤とか観光的な移動にも活用するといった新しい組み合わせなど、国や専門家の委員からも様々なアイデアをいただいているので、それらも含めて検討を進めている。

- ◆暫定的でもいいので、太宰府というまちをいつまでにこうしたい、こんなまちでありたいといった時間軸を入れた考え方のほうが望ましいのではないかと思う。

⑥ひきこもり支援について

<事務局説明>

- ◆ひきこもり支援に関して、今後当事者に寄り添った施策を実施していくに当たり、職員の理解を深めるため職員研修を実施した。
- ◆ひきこもりへの支援としては、就労から自立といった流れを考えがちだが、そうではなく、その手前の支援こそが求められていることや、社会とのつながりがない人にとって相談窓口の在り方についても改めて考えさせられるなど、今後のひきこもり支援に関する施策を展開していくに当たり、視野の広がる有意義な研修であった。

<委員意見・提案>

- ◆たくさん漢字を覚える、速く計算するといったスキルはコンピューターが得意なので、以前より要らなくなってきた。そのため何を自分がしたいのか、何が自分が得意なのかを自分自身で考えて見つけるスキルや、そのようなことを考える場があるというこ

とが大事だと思う。

- ◆言い方がよくないが、ひきこもりは偏差値競争などで順位がついてしまっ、自己有能感が感じられなくなったりしたときに、自分の理想と現実がずれたときに起きてしまうのではないかと思う。ひきこもりで自分が何をしたいのか分からないという人たちが、農業や園芸など誰かと関わりながら手を動かして、体を動かしていくうちに何かに気づくということもあるかもしれないので、そのような活動をバックアップすることを考えてもいいかもしれない。例えばゲームばかりしている人はひきこもりと言われてしまうかもしれないが、eスポーツとかですごく活躍する人かもしれないので、活躍する場を提供するようなことを考えてもいいのかなと思う。

⇒子供に居場所を学校、家庭以外にも持ってもらいたいということで新たなスペースが発足した。その中で農業体験などそれぞれの子供たちの強みを見つけ出すために、学校とは違う教育カリキュラムを用意していただいている。また、いきいき情報センター1階のスペースでeスポーツの体験会を行った。今度は高齢者の方のeスポーツの大会も行う予定だが、そのような従来の枠組みとは違う何かしら居場所や出番を見つけてもらうような取組を進めている。また一方で、世界に挑むような、世界一、日本一になるような太宰府の学生、子供たちも最近どんどん出てきているので、そのような子供たちの育成もしていかなければならない。居場所と出番というワードを大切にしていきたいと思う。

- ◆中学、高校ではネットリテラシーに対して教育をしていると思うが、早い子は小学生で携帯を持っているので小学校でもネットリテラシーに対して教育してほしい。
- ◆不登校が多くなっているなかで、様々なイベントや大学と共同で居場所づくりをしてもらっているが、なかなか不登校、ひきこもりの人は行けないことがある。そのことで悩んでいる保護者がたくさんいるので、そのような保護者を集めた講演会をして、学校以外にも色々な道があると教えてほしい。

⇒ひきこもりについては職員研修を経て何か企画ができないか検討している。また、子供の居場所だけでなく、子どもの権利条約についても意見をいただいている。そのようなことの解決や何かしらきっかけになるような取組をしていきたいと思っているので、もう少し時間をいただきたいと思う。

⇒小学校でも情報リテラシーというのはこれから身につけさせないといけないと思っているので、学校のほうにも呼びかけをしていきたい。また、不登校、いじめも含めて、学校に行けなくなった子供の保護者の方に対して、教育委員会が直接説明する場というのを本年度設けた。多くの方が来られたので、これからは学校も教育委員会もそのような発信をしていきたいと思う。

- ◆太宰府市の小中学校の不登校児童生徒の数は非常に多くなっていて、特に今は小学校1年生からの不登校が急増している。小学校に入ってからすぐからの不登校が急増しているため、就学前からのサポート、小学校に入る前の幼稚園や保育園との接続なども含めて幅広いスパンで捉えて対応を考えていく必要がある。
- ◆子供たちの変化をできるだけ早くキャッチしたりすることが必要。未然防止ということで活用できるのがアプリ。今日の表情などを子供たちが朝学校に来て押して、例えばにっこりマークだったり、ちょっと辛い表情だったり、それをチェックすることで先生方

や大人が把握できるような仕組みが必要ではないか。

- ◆仮に不登校になったとしても多様な居場所をつくる必要がある。居場所は本当に多様で、100人にいたら100通りの居場所が必要な状況だが、多様な居場所をつくっていくのは学校だけではなかなか難しい部分もあるので、民間のNPOや企業などとも連携しながら、全体で子供たちの居場所づくりを行っていく必要がある。
- ◆子供たちの学ぶ機会の保障、あるいは育つ機会の保障をまち全体としてどう考えていくか、子どもの権利条約も含めて改めて考えていく必要があると思う。

⑦ゼロカーボンシティ2050について

<事務局説明>

- ◆令和3年6月に2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロ社会の実現を目指すために、太宰府市気候非常事態ゼロカーボンシティ宣言を発出した。令和5年3月にはこの宣言を実現可能なものとし、気候変動への適用を進めるために太宰府市地球温暖化対策実行計画（区域施策偏）を策定した。温室効果ガス排出量を2030年には46%削減し、2050年には実質ゼロを目指すこととしている。
- ◆本市の温室効果ガスの排出量は2020年に21万8,000トンCO₂で、基準年である2013年度と比べて約24%の削減している。排出量は運輸部門が約50%、民生部門が約38%を占めており、その削減が課題となっている。
- ◆現在行っている取組として、令和3年11月から太宰府市地球温暖化対策推進補助金の交付を開始した。補助金のメニューとして、ZEH住宅の新築や改築、戸建て住宅への太陽光パネルの設置、太陽光パネルを設置した住宅への蓄電池の設置、電気自動車やプラグインハイブリット車などの次世代自動車の購入補助を行っている。今年度は5月下旬で当初の予定であった予算800万円に達し受付が終了しているため、今後は補助金の在り方についても検討していく必要があると考えている。また、今年度から一人ひとりごみ減量プロジェクトと銘打ち、さらなるごみ減量に向け一層の取組を進めるなど、環境に優しいライフスタイルなどと合わせ啓発を進めていきたい。

<全体に対する委員意見・提案>

- ◆筑紫野市長が変わり、宝満山の史跡指定10周年に際し、両市の市広報に合同企画が掲載された。環境が変わり、逆に連携もしやすくなったのではないかと予測しているが、観光以外にも見えてきているものがあれば教えてほしい。

⇒連携には前向きで、両市長が行き来することも増えてきた。今後宝満山だけではなく史跡をどう活用していくか、保存していくかという問題提起も行っていきたい。また、両市で最も密にしていることは消防行政。消防は筑紫野太宰府消防本部を2市で行っている。この2市での連携をもっと密にしたいと色々話しをしている。その中でさらに進んで、災害対応だけでなく経済的なものや入り組んでいるところが数多くあるので都市計画なども連携できるのではないかと思う。